



第54号
しらすぎ会総会は
5月の第3土曜。
2022年5月21日
次回は

トンネルの 向こうに光が!!

しらすぎ会 第24代会長

吉川 葉子



皆様！こんにちは！
日頃はしらすぎ会へのご理解、ご協力、誠にありがとうございます。今年も頑張ってみようと思っております。ご指導、ご鞭撻のほど、どうぞよろしくお願いいたします。
六月、七月に静岡県等で土石流被害、大雨被害があり、多くの尊い人命、財産が奪われました。会員の皆様におかれましては、被害などございませんでしたでしょうか。どうか、ご自身の安全を第一に考え、行動するようにいたし

ましよう。ダーウィンは「最も賢い者が生き残るのではなく、強い者が生き残るのではない。唯一生き残るのは変化する者である。」と言っております。

しらすぎ会の目的として、「会員相互の親睦向上を図り、母校の発展に貢献し、社会文化の進展に寄与すること」があげられています。昨年には、しらすぎ会理事と大学職員の方々の交流会が催され、大学の様子を知ることができました。経済の停滞に苦しめられる昨今ですが、過去二年間、経済的理由で退学した学生はいないことを知り、安堵したことでした。

さて、私たちは現在も感染力の強いデルタ株に悩まされ、不安の日々を送っております。

私は、ワクチンを開発して下さったカリコ博士に感謝しています。感謝は人を元気にし、温かい気持ちにさせてくれます。また、吉川英治の言葉で恐縮ですが、「登山の目標は山頂と決まっている。し

かし、人生の面白さは山頂ではなく、かえって逆境の山の中腹にある。」ということですね。今こそ、自分たちの生活を変化させるときです。

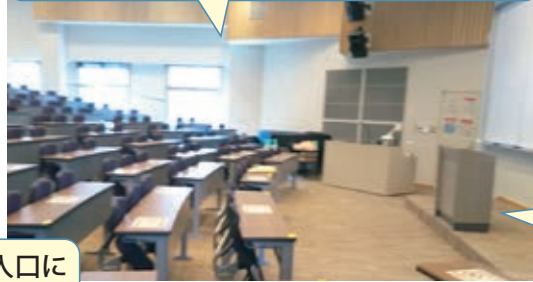
私たちの前には、困難が立ちますが、自分をどのように変化させ、環境に順応すべきかを考えていきましょう。朝の来ない夜はないのですから!!

With コロナ！ どう学ぶ？ キャンパスは今！



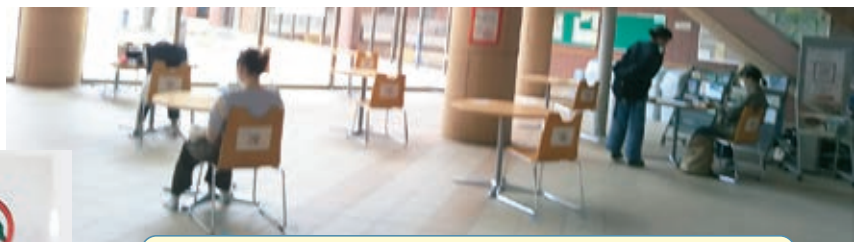
紅葉祭
オンライン開催

密を避けるため教室収容人数の50%以下で対面授業を実施。そのため広い教室の確保に苦戦しています。



授業内容等に応じて遠隔授業と対面授業を組み合わせ実施。授業内容が制約される中でも、教員が工夫を凝らし対応しています。

キャンパスの出入口には、サーマルカメラによる検温、手指消毒を行い、感染対策に努めています。



交流等の機会が減り、友達ができにくい状況です。録画授業の場合、自分のペースで学習を進められます。復習が何度でもできます。

土佐の伝統食

土佐の鯖ずし考

松崎 淳子

女専生活科一回生



昭和二十四年四月、新制大学として歩き始めた高知女子大学。教員の最下ッパ、助手の私。

家政学部生活科学科では「これまで『伝習』だった『家事を学に』の歩みが始まりました。調理のコツの科学をゼロから積み上げる日々。地産の食材：鰹、鯖、米……柚子なども。実習指導にも、理論を入れて……

例えば、テーマの一つ鯖ずし。まずは、明治生まれの母たちのレシピを細かく再現。酢味好みの土佐、冷蔵庫は無かった昭和期のすし作りのコツなどを……「今は、こうした方が」との案も生まれるのです。

その一つが「鯖ずし」。昔は、

秋の神祭(じんさい)が近づくと鯖を何尾も(組物皿鉢の数)三枚におろして、濃い塩で身をしめした後、食酢にドツプリと浸して、一日〜三、四日。この、酢のきいた身で棒ずしを作った。「こりゃあ酢がきいちゅうー」が寝め言葉。昔は米もご馳走やき、すし飯もタツプリ。お土産もすし。

で、あれこれ実験の末、提案した鯖ずしは、

①鯖は、高鮮度で塩打ちしたら、アミノ酸と食塩(Na⁺とCl⁻)が化学結合して(スワリと言う)キリツと締まる。日を経ても鮮度を保ち熟れて旨くなる。(昔の箱詰塩鯖も)

②塩鯖を浸す酢には旨味成分が溶出。漉してすし飯に……柚子の強い酸味を砂糖量でカバーし、みじん切生姜でコクを出す。

提案の棒ずしは、厚身の鯖



にすし飯をたつぷりで、一見昔のま。でも、鯖は芯まで白くはなく、「酢がきいちゅう」じゃなくて「これ旨い!」って。大人も子供も。嬉しい! とうく、「土佐寿司の本」の出版に。若い仲間が「トシじゃき、本にしちやろ」と、雑務を全部こなして下さって。感謝です!

なお、NHKテレビで放映されると「スーパードの鯖では?」との声。早速試してみたら。高知の柚子酢一〇〇%に三十分浸すと、おいしい棒ずしになり、レシピが全国放映に。



松崎淳子先生のご活躍

松崎先生は退職時に、ライフワークとして三本の柱を立てられたようです。一つに郷土料理の研究、二つ目に男女共同参画社会づくり活動、三つ目に地域社会奉仕活動。そのいずれも組織的な活動の場を立ち上げられ、会の代表として現在も現役で活動されています。

令和二年一月には、松崎先生を会長とする「土佐伝統食研究会」が第二十七回高新大賞に選ばれました。これは高知県内の農林水産物を素材に、これまで伝承されてきた食へ方を、発展整理して次世代に伝えていく活動が評価されたものです。

(しめさばを使った鯖寿司)、六月十八日には九十五歳の松崎先生の高知の食を守る活動や暮らしぶりを「生きることへ食べること」と題して放映されました。

今なお、自分の持てる知識・技術を伝えたいとの思いを持ち続ける姿に、感動しパワーをもらっています。永尾朱美(家政学科一回生)「土佐伝統食研究会」の会員としてずっと先生と研究しています

最近のテレビ番組では、NHK総合で三月六日の「ずっと四国」(鯖寿司)、三月十八日の「あさいち」



▲ 2020年1月「高新大賞」を受賞した時の記念写真です

よろこぶそ先輩後輩の皆さん

中島久枝さん (英文学科8回生昭和42年3月卒業) 高知県在住

あきらめません



高知に戻り十数年、森ときを愛する会のメンバーとして山野を歩いております。豊富にあったきのこも当初から比べると極端に少なくなっております。鳥の声も虫の音も同様です。

レイチェル・カーソンの「沈黙の春」を身に染みて感じ、生涯の研究課題として取り組んできた環境問題も昨年来のコロナパンデミックにより、各国からの情報収集が困難になってきました。

そして私たち相互のコミュニケーションも制限を受けることになりました。もともと友人たちとおしゃべりしたい、感動したく抱き合いたい、それすらできない現状で、ひたすら耐えています。

でもあきらめません。この時間を無駄にはしません。コロナ



が教えてくれたことは距離の問題の克服法です。これからにも生かされます。人との接触もなんとか保ちたいと、きのこ勉強会や講演会もオンライン形式で始めました。

野外で木々の間を縫い草むら歩き代わりに、自宅でパソコンのマウスを握っております。山中で散らばっているメンバーに大声をかける代わりに、マイクでゆっくり語りかけています。アマチュア無線も再開しました。

コロナ騒ぎが落ち着けばすぐに元の状態に戻るようにと。世界に散らばっている人たちと再び手をつなごうと。

岡谷恵子さん (衛生看護学科19回生昭和48年3月卒業) 東京都在住

コロナ禍、三十五年ぶりに注射器を手に

昨年からの新型コロナウイルス感染拡大は首都圏、大都市圏を中心に現在も終息の見通しが立たない状況で、一週間後には東京オリンピックが開催されません。有効な予防手段である新型コロナウイルスワクチン接種が、若い世代にも早く行われるようになって欲しいと願うばかりです。そんな中、私は自治体や大学が実施するワクチン集団接種に協力できる機会を得て、看護師として役に立っていることを実感

している日々を送っています。三十五年ぶりに注射器を手にし、よく分からない高揚感で仕事をこなしてきました。そのうちにはるか昔看護師として働いていた頃のことを思い出され、看護の道を選択して良かったと再確認できたと思います。そういうと大げさ過ぎるかもしれないけれど、それほどコロナ禍で少しでも役に立つことができたという思いがあります。私には意味あることだったのでしよう。

令和3年度 各支部会員数 (3年3月卒業生を含みます) 人		
関東支部 (東京、神奈川、埼玉、千葉、茨木、栃木、群馬、山梨)	484	(うち新加入6)
東海支部 (愛知、岐阜、長野、三重、静岡、新潟)	322	(うち新20)
京阪神支部 (大阪、京都、奈良、和歌山、兵庫、滋賀)	996	(うち新46)
岡山県支部	312	(うち新12)
広島県支部	266	(うち新15)
山口県支部	75	(うち新4)
香川県支部	517	(うち新14)
愛媛県支部	646	(うち新14)
徳島県支部	652	(うち新17)
高知県支部	3,863	(うち新150)
九州支部 (福岡、佐賀、長崎、熊本、大分、宮崎、鹿児島、沖縄)	601	(うち新22)
以上、11支部35都府県に居住の卒業生	8,734	(うち新加入320)
支部の無い県に居住(支部に属さない)卒業生	419	(うち新加入13)
国外在住者	51	
物故者	297	
大学院生の内学部卒業生	162	
居住地不明者、その他	3,725	
令和3年4月末現在の卒業生の総数は13,388人		

快挙!! 女性の地位向上へ

松崎淳子先生、男女共同参画社会づくり功労者内閣総理大臣表彰に選ばれる

松崎先生の長年のとりくみ(男女平等社会の実現)が評価され、上記の総理大臣表彰が政府より6月29日に発表されました。本年度は全国では11人が選ばれ、本校では、(故)池川順子元学長に続き2人目です。

増野園恵さん(看護学科35回生平成元年3月卒業) 兵庫県在住

災害看護に挑戦する日々

現在私は、兵庫県立大学地域ケア開発研究所に勤務し、災害看護を専門として研究と教育に従事しています。大学院への進学に合わせて兵庫に来たのは、阪神・淡路大震災から二年が過ぎた一九九七年四月のことでした。当時はまだ街のあちこちに震災の爪痕が残っていました。大学院では専攻した看護管理学に加えて災害看護についても学ぶ機会がありました。とはいえ当時の私は、将来自分が災害看護の研究や教育に携わることになるとは露ほども思っていました。

大学院修了後は教員として大学に残ることになり、徐々に災害看護の世界に足を踏み入れていくことになりました。災害が起こると被災地に出かけ、避難所等での支援活動や調査活動に関わるようになりました。活動



▲平成28年熊本地震の被災地での活動



▲ネパールの研究者らとの交流

Every day is a new day

鈴木善美さん(英文科28回生昭和62年3月卒業) 徳島県在住

高知女子大で学ばせていただいた四年間は、かけがえのない友人や先生方との出会い、そして、生まれ育った徳島から離れた高知という情熱と人情味溢れる街での学生生活、私にとって大切な人生の宝物です。そんな素敵な学生時代から三十五年が過ぎようとしています。卒業後地元に戻り、公務員となり、仕事に、家事に、子育てに追われる日々。仕事柄、時代とともに、社会がめ

まぐるしく移り変わる様を体感。グローバル化、デジタル化により世界が身近なものとなり、あらゆる情報が瞬時に伝わる世の中に。また、最近ではDiversityの重要性が提唱され、個人の価値観はますます多様化しています。時代の変化に翻弄される日々ですが、大学時代に学んだHemingwayのEvery day is a new dayという言葉を胸に、毎日の新しい発見や出会いを

大切に過ごしています。最近、徳島の美しい風景や美味しいものの写真を記録し、英語の格言とともに、Instagram(@satoyuka85)で発信しています。長年の仕事もついにカウントダウン。次なるステージに向けて、新しい毎日を楽しみつつ、これまでの自分の経験を次代へと繋いでいきたい、何ができるのか、模索を続けていきたいと思っています。



しらさぎ会 ● 各支部だより

山口県支部 「しらさぎ会総会に参加して」

●5月の総会は、初のオンライン併用の会議となりました。当日、感染症予防対策のために学内への立ち入りができなくなっていると知りました。このような状況下でも、しらさぎ会各支部がつながる機会を設けていただけたことを、とてもありがたく感じました。

今回の総会では、新しい学び、改めての学びがありました。前者は、オンライン会議の仕組みを初めて自分のこととして学習し体験できたことです。後者は、議事が進行していく中で「同窓会活動に参加するということは、今まさに学んでいる学生さんたちを応援することにつながる」ということに気づけたことです。自分もまた在学

中には同窓会の先輩方に応援してもらってきたのだなあと思いました。学生さんがのびのびと学びたいことを学べる環境が整いますようにと、同窓会の一員として願っています。

さて、山口支部は支部総会開催予定の年ですが、安全な開催を考えると来年度に改めて計画することになるかもしれません。直接会えなくても、事情があつて活動を休止していても、長く同窓の皆様とつながっていらればよいと思っています。

(支部長 ● 道中亜紀 / 国文学科 35 回生)

徳島県支部 コロナ禍でも「つながり」実感！

●長引くコロナ禍にあつても、季節は折々の花を咲かせ、豊かな新緑を見せてくれます。しらさぎ会の皆様はいかがお過ごしでしょうか。

徳島支部は、2年に1回、支部総会を開催してきました。令和3年度は、延期した昨年の総会を開催する計画を立てていましたが、現状ではまだ確定していません。夏は無理でも、お正月は可能かとも思いながら気をもんでいます。徳島でも、多くのイベント、集会等が中止や延期を余儀なくされています。公民館などの地域の交流の場も使用できない日がありました。1日に複数のクラスターが発生し、「感染者60人」が報道される日もありました。5月末の時点では、感染者数が一桁の報告が1週間ほど続きました。最近、高齢者間で、「ワクチンの予約できた？」が話題にあがっています。安心して集会できる時期に、改めて会員の皆様との交流を楽しみたいと思っています。それまで、役員の方には、継続をお願いし、ご協力いただきながら改めて支部総会開催を企画したいと

思います。

同窓会を日ごろから強く意識しているわけではありませんが、新聞や地域の活動報告などで、しらさぎ会員のお名前を拝見すると、うれしくなります。同窓会は、直接お目にかかることはできなくても、折に触れ、つながりを実感できる存在です。事務局や役員の皆様への感謝とともに、しらさぎ会の発展をお祈りしています。



▲徳島市の国際姉妹都市ポルトガル共和国レiria市長をお迎え

(支部長 ● 多田敏子 / 衛生看護学科 19 回生)

関東支部 総会は2022年秋に！



●しらさぎ会関東支部は、今年の秋に開催を予定していた支部総会を中止することにしました。決定したのは今年の2月ですが、当時は新型コロナウイルス感染が拡大し、首都圏では緊急事態宣言が再発令されていました。それでも開催時期は7～8ヶ月後で、その時の状況がどうなるのか不透明な段階での決断には相当迷いました。しかし、現在の首都圏の感染拡大により、東京都に緊急事態宣言が出されたことや、東京オリンピック開催の感染拡大への影響などを考えると、支部総会中止の決定は妥当だったと安堵しています。関東支部総会は1年延期して2022年の秋に開催することとし、それに伴って役員の任期も1年延長することにしました。来年の秋には、新型コロナウイルス

感染も終息していて欲しいと切に願うばかりです。

(支部長 ● 岡谷恵子 / 衛生看護学科 19 回生)



香川県支部

支部活動に新しい風を



●香川支部総会は2年に1度開催しています。令和3年度は開催する年。しかし、新型コロナウイルスの感染拡大のため、会員の安全・安心を考慮して支部総会を中止しました。令和2年度しらさぎ会報はコロナ禍のため中止となりました。令和2年度に掲載予定していた支部総会・大学見学ツアーについて報告します。

- ・日時 令和元年10月5日(日) 晴
- ・参加者 28名(会員25名 家族3名)
- ・乗車地 長尾・屋島・JR高松駅・豊浜SA
- ・支部総会 車内にて開催

永国寺キャンパス



▲永国寺研究棟前にて

本日のサプライズ第1弾

松崎淳子先生のお出迎え

会員の一言!

- ・松崎先生のお元気な笑顔が最高!
- ・会員のみんなにも笑顔がいっぱい!
- ・なつかしさとうれしさで最高気分。

永国寺研究棟
永国寺図書館
見学

- ・ていねいな説明に感謝。
- ・素晴らしい環境に感謝。
- ・研究棟5階から見た高知城が素晴らしい。
- ・壁に飾られていた恩師の作品に感動。



▲風に舞うモニュメント「詩の翼」前にて

食事処；かつお船



▲カツオのわら焼き体験
かつお船にて

- ・戻りカツオが最高に美味。
- ・わら焼き体験に感動。
- ・燃え上がる炎に感動。
- ・ちりめんがおいしい。
- ・文旦や鯖寿司など高知の名産品を買った。

池キャンパス

本日のサプライズ第2弾

野嶋佐由美学長のあいさつ

- ・池キャンパスに到着すると学長がお出迎えしてくださる。あまりの驚きにカメラのシャッターを押し忘れて…

本日のサプライズ第3弾

現役大学生による調理室・看護実習室案内

- ・学生と会話の機会ありよかったです。
- ・設備がすばらしい。
- ・もう一度入学したいなあ。

バス内での対応 その他

- ・バス内での総会は効率的。
- ・役員の準備や計画がよい。
- ・とても楽しかった。
- ・工夫された企画で参加してよかった。
- ・色々な世代の方と話ができ食事会とは違った雰囲気楽しかった。

帰路に着く

大学見学バスツアーの成果と課題を生かそう

今後の総会で希望する企画 (24名)

- ・日帰りバスツアー…12名
- ・来賓講座(大学・同窓会)…9名
- ・ミニコンサート…7名
- ・大学見学バスツアー…2名
- ・ワークショップ…18名
(手芸(7)料理(4)趣味発表(4)救急(3))

令和4年度総会は貴重なご意見を生かして企画・運営したいです。大勢の方のご参加をお待ちしています。コロナウイルスに負けないように過ごしましょう。

(支部長 ● 嶋村洋子 / 家政学科 1 回生)

高知県支部

モヤモヤ～なお誘い



●私が「しらさぎ会」のお手伝いを始めたのは、「会に出席するだけで難しいことないよ」の誘い文句からでした。ところが、総会に出て出席者の少ないのには驚きました。不参加の理由は色々あると思います。個々に聞いてみないとわかりませんが、とにかく参加者が少ないのには正直驚きました。私の場合を振り返ってみると、①知り合いがいらない②お誘いがない③友達に会っても学校(しらさぎ会)の話題がなかった等が考えられます。

見える化や地域連携を目指している母校に対して何か

お手伝いをしたいとの思いはあるのですが、モヤモヤ～としていて具体的なものはありません。まずは、自分の周りの知り合いに声をかけ、モヤモヤ～なお話から仲間を一人でも増やすことから試してみよう。学校時代の思い出話や家族や仕事のあれこれをしゃべる雑談会から始められないでしょうか。

こうして始める仲間づくりは時間がかかるかも知れませんが、とにかくやってみたいです。

(支部長 ● 元吉正子 / 国文学科 10 回生)

愛媛県支部

長年の歴史を持つ「愛媛の支部総会」と コロナ禍による2年連続の休会

●愛媛支部総会は伝統的に毎年6月の第4日曜に開催しています。例年支部幹事が中心になり、事務局のご協力を得て講演を了承された講師への連絡、会員への支部総会案内と参加者の確認、支部総会当日の会場設営、親睦に不可欠な会食と2次会について等、綿密に準備され、これまでに53回実施されました。

第3代支部長として37年間も務められた山上ユリ子先輩の記録によりますと、昭和41年(1966年)に第1回愛媛支部総会(通称“愛媛の集い”)を開催し、支部長は初代の山中千代子先輩から、第2代の池田多美恵先輩、第3代(前記)、第4代の門田洋子先輩へと引き継がれました。

2019年から第5代となった新米の支部長(筆者)にとっ

て、コロナ禍の収束が見えない中で、しらすぎ会“愛媛の集い”の休会を決断することは容易ではなく、前支部長、副支部長、支部幹事長らと相談のうえ決定し、通知ハガキを送付しました。1年目は令和2年5月20日頃に、2年目は令和3年6月1日に、「しらすぎ会総会」の概要も併記して、会員646名に送付しましたが、22枚が宛先不明で戻ってきました。

未曾有の出来事で2年連続の休会に追い込まれましたが、来年こそ第54回しらすぎ会“愛媛の集い”を開催し、新設の社会福祉学部や男女共学世代の卒業生にも多数のご参加頂き、愛媛支部会が発展できる事を願っています。

(支部長●伊賀上睦見/衛生看護学科16回生)

「楽しい交流の時間でした」

九州支部

●令和1年11月10日(日)久留米市で支部会を開催いたしました。17名の参加でした。筑後地区在住の、中村さん(看護)、武藤さん(食物)、川島さん(食物)、鎌水(看護)の4人でお世話を、また、卒業生ではない近所の方々にも作業をたのみ協力していただきました。

高知より吉川会長、沖縄(1名)鹿児島(1名)佐賀(2名)熊本(3名)福岡(9名)の参加でした。短い交流の時間でしたが、参加したことで、部活での先輩後輩の関係がわかった人。定年後の活動や、趣味を生かした生活、旅行の話など大いに語り合いました。

ちょうど七五三の時期で、お店は着飾った子どもや、大人たちで大混雑でした。今のコロナ禍での自粛生活と比べて、久留米での支部会で皆さんと久しぶりに語り合ったあの時間が大変なつかしいものに思われます。何の心配もなく皆さんと再会できる日を待っています。

☆次回九州支部は熊本が担当します。卒業生が35人います。コロナ禍の中、打合せもできませんが落ち着き次第通知しますので、お友達をお誘いあわせのうえで参加を。

お尋ねは090-1519-0393 宮川まで。

(幹事●鎌水千津子/衛生看護学科19回生)



東海支部

来年こそは

●6月30日現在、日本のコロナワクチンの65歳以上の接種率は、1回目58.26%、2回目24.40%です。まだまだです。

東海地区は感染も厳しく、まだ先が見えない状況です。人々が集って何かをするということは考えられません。

昨年、地区同窓会を断念したときは、まさか次の年もまたとは思いませんでした。東海地区に参加していただいている方々は高齢になり、今の状況では開催はできません。

それゆえ、思います。一皆が健康であることー 楽しく語り合うためにはそれこそが第一の条件なのだということ。

多くの方がワクチンの接種を終え、コロナが収束したとき、また仲間が集えるようになるといい、そのときには若い人たちが多く参加してくれるようになるといい、多くの笑顔に満ちているといい、そんなことを思います。

歴史の中でしか知らなかったスペイン風邪のようなパンデミックを、令和の時代に知ることになるとは。そのため、先進国だと信じていたのに随分遅れているところが多かったり、温和で我慢強く判断力に優れていたはずが、強制しなければできないことが増えていたりしました。それでもすべてを乗り越え、来年こそ開催できると信じます。

(支部長●山本真理子/国文学科16回生)

京阪神支部

同窓会は令和 4 年に開催します。お楽しみに！

●京阪神支部の皆様、お変わりなくお過ごしでしょうか？役員を仰せつかってから、早、丸 2 年が経ちましたが、まだ、何もできていず申し訳なさで一杯です。本来なら昨年 11 月に支部総会・懇親会を開催する予定で、この会報にも予告を出させていただきました。当日は南裕子先生をお招きし、いろいろな思い出話をお伺いする予定でしたが、残念ながらコロナ禍で中止とさせていただきます。また、今年は、リベンジするつもりで会場等も準備をしておりましたが、新型コロナ変異株の拡大・流行もあり、まだまだ先が見通せない状況になっています。

今は無理をせず、皆様に安心して参加いただけるようになってからお集まりいただくのがいいとの思いに至り、来年に延期させていただきたいと存じます。皆様には、楽しみにして下さっていたところ誠に申し訳ありませんが、何卒、ご了承くださいませようお願い申し上げます。

次回の支部総会・懇親会の開催予定

日時：令和 4 年 11 月ごろ

場所：未定

(支部長 ● 上林孝子 / 衛生看護学科 26 回生)

岡山県支部

「本年度の同窓会活動」



●令和 2 年及び令和 3 年の岡山支部同窓会活動について御報告させていただきます。

令和 2 年の支部総会は当初 5 月に予定していましたが、ところが中国武漢を発生源とした新型コロナウイルスの蔓延により秋に延期。その予定も感染症の収まるきざしのないままこの年の支部総会はやむなく中止と致しました。平成 23 年に支部が再結成されて以来毎年の開催をみていただけない残念な年となってしまいました。

そして令和 3 年を迎えても一向に終息のメドはたたず

4 月中旬からは岡山県にも非常事態宣言が発令され今年の春も開催を見送るしかない状況となっています。宣言解除を迎えた現在は落ち着きを見せて来ていますので早速理事会を召集し今後の予定を理事の皆さんと決定する所存です。開催決定の際は支部会員の皆様に往復ハガキを送付致しますので御返信いただければ幸いです。

紙面を通じまして皆様の御健康と御多幸をお祈りしております。

(支部長 ● 平岩博子 / 国文学科 21 回生)

広島県支部

第 17 回広島支部会のご報告

●昨年は会報が発行されませんでしたので、一昨年の支部会の様子を報告いたします。

2019 年 11 月 10 日、福山市沼隈町の神勝寺を訪ねました。こちらは 1965 年に建立された臨済宗建仁寺派の禅寺で、広大な境内には修行道場や茶室などが趣よく配されています。庭の緑が美しく眺められる茶房で、“福山のことなら何でもお任せ”の加納三千子さん(生 14)から沼隈半島の歴史や史跡についてお話を伺い、湯豆腐をいただきました。そして幹事役を引き受けてくださった永井庸央さん(看研 15)から「支部会案内はがき」の報告がありました。返信の枚数は少なかったのですが、宛先不明で戻ってきたはがきは一枚もなかった…とのこと。支部会開催については皆さんに確認していただけていると、理解しました。その後、紅葉を始めた庭を散策。帰途は、西日本で最初の浄土真宗布教拠点である光照寺に立ち寄り、さらに阿伏兎観音も拝観して福山駅で解散となりました。

広島県東部の福山市。何度訪れても魅力尽きない町だ

と、改めて感じました。

さて、実は今年が 18 回目の支部会開催年ですが、コロナ禍により先の見通しが立たず開催をあきらめました。早く、何の心配もなく開催できるようになることを願うばかりです。

(支部長 ● 田中めぐみ / 国文学科 9 回生)



しらさぎ会連絡先

- 事務局 (Fax・mail は常時)
☎ Fax 088 (872) 0580 mail : sirasagi@cc.u-kochi.ac.jp
- <http://www.u-kochi.ac.jp/~sirasagi/>
- 事務局員勤務 木&金 9時30分～16時00分

- 支部掲示板があります。ホームページをご覧ください。
- 住所変更等、お知らせください！住所不明者が多くなっています。
- ※同窓会費は終身会費として入学時に納入されています。
- 会報が届かないのは現住所不明等のためです。



住所変更の QR コード

令和三年度 総会報告

日時：令和3年5月15日(土) 場所：パシフィックホテル ※コロナ禍で県外代議員についてはウェブ会議とした。

参加：代議員27名、委任状2名、理事14名、監事2名 ○学歌斉唱 ○野嶋名誉会長挨拶 ○会長挨拶 ○来賓紹介 ○議長選出のあと議事に沿って進行した。

令和二年度事業報告

(1)会議について

①令和2年5月16日(土) 新型コロナウイルス感染拡大により

総会中止 書面評決となった。 ②理事会は計6回開催(この他メール会議を計4回開催)

(2)支部活動

●11支部中7支部において支部総会を予定していたが、新型コロナウイルス感染拡大により中止

●令和2年度は、11支部35都府県、8,459名の会員がおり、支部のない道県は12

●令和3年3月31日現在、会員数13,388名

(3)広報活動

①会報「しらさぎ第54号」中止 ②高知県立大学同窓会しらさぎ会ホームページの更新

(4)学生支援

①国際交流支援は30万円予算計上していたが、コロナ禍において実施されなかった。

②奨学金貸与50万円2名

③令和2年度特例学生生活動支援金給付10万円15名

④卒業式・修了式・お祝いメッセージと印鑑ケースを贈呈(卒業生数356名)

⑤入学式・お祝いメッセージと校章を贈呈(入学生数398名)

(5)その他

①HPから住所変更ができるフォーム作成

②在学生へ同窓会をPRする資料作成

総会の審議の中で

○特例学生生活動支援の次年度以降の財源は？一般会計からの支出を予定している。

○奨学金2名でコロナの状況もあり十分なのか？学費の無償化や他の奨学金もあり学業を諦める学生はいない、枠を増やす必要は今のところないと回答した。

○様々な情報は会報を待つことなく知らせしてほしい、また、支部会員への書類作成や印刷に係る費用など支部活動の予算の増額を、理事会で協議すると回答した。

○昨年度の書面評決の結果がホームページにアップされていないが？。会報しらさぎで報告することとした。

※令和三年度予算について

在校生預かり金を廃止し、しらさぎ会基金へいれ、退学者への返金もなくなることが報告された。

令和二年度 書面評決の 意見交換の中で

○新型コロナウイルス感染拡大の影響から会報を発行しないことについて、時期を延期してでも何らかの形で出すべきではないかという意見があった。会報を楽しみにしてくれている会員のご意見と捉え、今後一層「会報しらさぎ」発行に努めると回答した。

○特別支援について具体案が示されていないという意見があった。理事会では、感染拡大防止策(マスクや手指消毒等)の話題があったが、まずは、本年度に限る150万円の予算計上について、代議員にご審議いただくことを優先し、予算承認後大学と協議し理事会等で決定していく予定であると回答した。

倍の予算であり、品物の変更も含めて卒業の記念になるものを検討するため倍の金額としてと回答した。

令和元年度事業報告

(1)会議について

①令和元年5月18日(土) 高知県立大学永国寺キャンパスにおいて総会開催

②理事会は計7回開催

(2)支部活動

●11支部中9支部において支部総会が開催された。

●支部企画は関東支部のみ

●令和元年度は、11支部35都府県、8,328名の会員がおり、支部のない道県は12

●令和2年3月31日現在で、会員数13,028名

(3)広報活動

①会報「しらさぎ第53号」発行

②高知県立大学同窓会しらさぎ会ホームページの更新

(4)学生支援

①奨学金貸与50万円1名

②卒業式・修了式にお祝いメッセージとがま口朱肉印鑑ケースを贈呈(卒業生数352名)

③入学式・お祝いメッセージと校章を贈呈(入学生数385名)

④学生生活動支援として、文化学部創設20周年記念事業を補助(10万円)

⑤国際交流等支援金(30万円)

●韓国 木浦大学校短期研修3名

●イタリヤ ヴェネツィア・カフォスカリ大学短期研修2名 ●アメリカ エルムズカレッジ短期研修2名

(5)大学との交流会

①令和元年7月6日(土) 学長、副学長2名、しらさぎ会会長、副会長1名で意見交換会を実施

②令和2年1月23日(木) 高知県立大学(15名)としらさぎ会(14名)との意見交換会を開催

③令和元年10月28日(月) 講師：しらさぎ会会長 吉川葉子 テーマ：「デートDVって何？」

●令和三年度事業計画(総会承認)

1. 広報

①会報「しらさぎ」第54号発行

②高知県立大学同窓会しらさぎ会 ホームページの更新

2. 支部活動支援

○通信・活動費の補助

○令和3年度各支部総会の開催

3. 学生支援

○奨学金50万円を2名に貸与

○特例学生生活動支援

○入学・卒業時のお祝いメッセージ・記念品贈呈

○学生生活動等の支援

4. 会員との連絡調整

○入学・卒業時のお祝いメッセージ

○学生生活動等の支援

5. 大学との交流会

○入学・卒業時のお祝いメッセージ

令和2年度決算報告(令和2年4月1日~令和3年3月31日)

○一般会計・収入の部 (円)				
項目	R2年度予算	R2年度決算	増減	備考
繰越金	3,157,411	3,157,411	0	
会費	5,280,000	5,310,000	30,000	15,000円×354名
利息	—	27	27	
奨学金返済金	420,000	370,000	-50,000	返還者7名
寄付金	—	—	—	
その他	—	—	—	
合計	8,857,411	8,837,438	-19,973	

○一般会計・支出の部 (円)				
項目	R2年度予算	R2年度決算	差引残高	備考
総会	0	0	0	施設使用料等
交通費等	0	0	0	代議員交通費等
支部	1,500,000	649,244	850,756	支部連絡補助金(往復はがき代+5,000円)等
学生支援	300,000	0	300,000	国際交流支援等
特別支援	1,500,000	1,500,000	0	100,000円×15名
奨学金	1,000,000	1,000,000	0	500,000円×貸与者2名
入学祝	150,000	145,200	4,800	記念品校章363円×400個
卒業祝	500,000	250,800	249,200	記念品印鑑ケース660円×380個
広報	0	0	0	会報作成費
会報発送	0	0	0	会報発送費等
理事会	25,000	14,720	10,280	施設使用料等
交通費等	250,000	78,150	171,850	理事・幹事等交通費等
小計	5,225,000	3,638,114	1,586,886	
事務管理費	130,000	117,619	12,381	事務用品及び備品、封筒、HP保守管理費等
賃金	750,000	673,000	77,000	事務局員1名
その他通信費	220,000	154,435	65,565	ホームページに關わる諸費用、電話、振込手数料等
小計	1,100,000	945,054	154,946	
予備費	2,532,411	12,257	2,520,154	
合計	8,857,411	4,595,425	4,261,986	

次期繰越金 8,837,438 - 4,595,425 = 4,242,013

令和3年度予算(令和3年4月1日~令和4年3月31日)

○一般会計・収入の部 (円)		
項目	予算	備考
繰越金	4,242,013	
会費	5,970,000	15,000×398名(学部生357+院生41)
利息	—	奨学金返済金口座も含む
奨学金返済金	320,000	返還者7名
寄付金	0	
その他	0	
合計	10,532,013	

○一般会計・支出の部 (円)		
項目	予算	備考
総会	450,000	Zoom会議開催に向けての備品代等
交通費等	50,000	代議員交通費等
支部	1,300,000	総会開催補助金(往復はがき代+5,000円)等
学生支援	200,000	国際交流支援等
特別支援	2,000,000	新型コロナウイルスの感染拡大に伴う学生活動停滞を防ぐ支援等
奨学金	1,000,000	500,000×2名
入学祝	150,000	記念品校章400個
卒業祝	300,000	記念品印鑑ケース400個
広報	500,000	会報54号11,500部作成費
会報発送	850,000	会報発送費等
理事会	35,000	施設使用料等
交通費等	200,000	理事、監事、推薦委員、編集小委員会委員交通費等
小計	7,035,000	
事務管理費	100,000	事務用品及び備品、封筒、HP保守管理費等
賃金	750,000	事務局員1名
その他通信費	150,000	ホームページに關わる諸費用、電話、切手、振り込み手数料等
小計	1,000,000	
予備費	2,497,013	
合計	10,532,013	

○在学生預かり金 (円)

項目	2020年度予算	2020年度決算	増減	備考
繰越金	22,385,548	22,385,548	0	2019年度繰越金
2020年度入学生	5,760,000	5,339,120	-420,880	15,000円×356名分一振込手数料
未納者入金	—	0	0	
2019年度卒業生	-5,280,000	-5,310,000	-30,000	15,000円×354名
利息	—	1,430	1,430	定期預金利息等
退学者返金	-240,000	-240,000	0	15,000×16名2019年度退学者返金
振込手数料	—	-880	-880	
合計	22,625,548	22,175,218	-450,330	

○在校生預かり金
22,175,218円(令和2年度繰越)→しらすぎ会基金へ

○しらすぎ会基金 (円)

項目	基金総額	備考
基金	13,947,999 +	13,947,999(しらすぎ会基金令和2年度繰越)+22,175,218(在校生預り金令和2年度)
利息	—	
合計	36,123,217	

○しらすぎ会基金 (円)

項目	基金総額	2020年度決算	増減	備考
基金	13,936,074	13,936,074	0	
利息	—	11,925	11,925	
合計	13,936,074	13,947,999	11,925	

監査報告
領収書、出納簿、預金通帳等監査した結果、財務が適正に処理され、誤りなどの問題がないことを認めます。

2021年4月2日

会計監査 西原純子 小松美鶴

人事消息

(敬称略)

- 退職(令和元年度)
 - 文化学部准教授 溜和敏
 - 看護学部准教授 渡邊美保
 - 同助教 幸若菜
 - 同助教 高由美
 - 同助教 原圭子
 - 同助教 井上さや子
 - 同助教 川村典子
 - 同助教 島山真美
 - 同助教 健康栄養学部助手 門田麻里
 - 看護学研究科特任助教 源田美香
 - 健康長寿センター特任助教 (令和2年度に看護学部で採用) 源田美香
- 退職(令和2年度)
 - 文化学部教授 小長谷悠紀
 - 看護学部助教 永井真寿美
 - 同助教 庄司麻美
 - 同助教 社会福祉学部准教授 鈴木孝典
 - 健康栄養学部教授 稲井玲子
 - (令和3年度に健康栄養学部で特任教授として採用) 沼田聡
 - 健康栄養学部助教 神原咲子
 - 看護学研究科教授 (令和3年度に看護学部で特任教授として採用) 神原咲子
 - 看護学研究科特任講師 李賢珠
- 採用教員(令和2年・4・1)
 - 文化学部准教授 白岩英樹
 - 看護学部助教 源田美香
 - 同助教 高橋真紀子
 - 同助教 中井あい
 - 同助教 藤村真紀
 - 同助教 三浦由紀子
 - 同特任助教 生川卓弘
 - 健康栄養学部助教 山本かよ
 - 健康長寿センター特任助教 山本かよ
- 採用教員(令和3年・4・1)
 - 看護学部特任教授 神原咲子
 - 同助教 徳岡麻由
 - 同助教 廣瀬未央
 - 健康栄養学部特任教授 稲井玲子

食を通じた交流 -COME ☆ RISH

昨年私たち COME ☆ RISH という健康栄養学部の学生で構成されたサークルでは、県立大学の学生に向けてのお米の配布を行いました。このお米の配布に至った経緯として、私たち COME ☆ RISH が普段お世話になっているおのおのみエコロジーファーマーズ様や、中土佐町農林課の皆様が、新型コロナウイルスの影響でバイトがあまりできない学生が多いという情報をうけて、学生に是非おのおのみエコ米を食べていただきたいという話を頂いたことが始まりでした。おのおのみエコロジーファーマーズ様のお米を同じ県立大学の学生に向けての配布をするためにお手伝いをさせて頂いたことが私たちの役割でした。初めての経験、また、新型コロナウイルス感染拡大を予防するために、様々なことに注意をしながら行うことは、すごく難しかったです。しかし、先生方、立志社中事務局の皆様のお力を借り、COME ☆ RISH の学生全体でお手伝いをさせて頂くことを決めました。

また、このような機会を頂いたので、COME ☆ RISH や、おのおのみエコ米を PR する PR ペーパーと一緒に渡したりする事で、普段あまり関わることの少ない文化学部の学生の方にも紹介ができるチャンスになりました。

私がこのお米の配布の経験を得て、感じたことがあります。それは、人と人の思いやりの大切さです。昨年私たち COME ☆ RISH も例年のような活動を行うことができず、

どのような事であれば行えるのか、中土佐町の関係者の皆様と関われるのか悩み考えた1年でした。たとえ、現地に outward 機会が少なくとも、関係者の皆様は、常に私たち県立大学の学生のことを考えてくださり、私たちが困っているときには手を貸してくださいました。距離ではない心の思いやりを感じることでできた経験でした。

健康栄養学部3回生 野村実央



あふち寮改築 -あふち寮改築後の交流の場に思いを馳せて



あふち寮は、築50年以上の歴史を誇る学生自治寮です。入寮前に見学に訪れた際、寮母さんがおらず寮長を学生が務めているということに驚くとともに、電話対応や寮内の案内など誠実に対応して下さる先輩方の姿に心を打たれました。その2年後、私も寮の見学対応をする役割をいただき、先輩方のお姿を目標に励みました。あふち寮の思い出を振り返ると、役員の仕事の大変さややりがい、共同生活の楽しさが鮮明に思い出されます。

寮の役員として、前述の見学の対応の他に、備品の管理や生活上のルールの徹底を促すための資料の作成や集会の企画・運営等を行いました。明け方まで資料の作成や寮の運営について話し合ったり、大量のコピー用紙を購入して街からフラフラになりながら歩いて帰ったりしたのは過酷な日々でしたが、今となっては仲間と共に笑いながら話せる大切な思い出です。役員仲間と励まし合って乗り越えることができたので、感謝の気持ちでいっぱいです。

寮の役員として、前述の見学の対応の他に、備品の管理や生活上のルールの徹底を促すための資料の作成や集会の企画・運営等を行いました。明け方まで資料の作成や寮の運営について話し合ったり、大量のコピー用紙を購入して街からフラフラになりながら歩いて帰ったりしたのは過酷な日々でしたが、今となっては仲間と共に笑いながら話せる大切な思い出です。役員仲間と励まし合って乗り越えることができたので、感謝の気持ちでいっぱいです。

共同生活であるため、当番や行事が多く、眠たい目をこすりながらごみの運搬や掃除をしたことが昨日のこのように思い出されます。また、部屋のメンバーは学部や学年、出身地の異なるメンバーで構成されるため、新たな考え方に会ったり、豊富な経験談を聞いたりして刺激を受けることができました。同室のメンバーでのたこ焼きパーティーや複数の部屋合同での鍋パーティーをしたことがとても楽しく、忘れられません。同級生とは、一緒に料理をしたり、湯船に浸かりながら人生相談をしたりしました。

あふち寮での生活を通して、かけがえのない人たちと出会い、一生色褪せることのない大切な思い出を得ることができました。思い出の詰まったあふち寮が取り壊されることを寂しく思っていたところ、この度の全面改築のお話を伺いました。新たな交流の場に生まれ変わり、今後も同じ場所で多くの学生の思い出が紡がれていくことに期待を膨らませています。

健康栄養学部4回生 矢野愛実



UOK 手話サークルについて

UOK 手話サークルは、昨年度創部したサークルです。現在、看護学部生 22 名・社会福祉学部生 1 名の計 23 名で、週に 1 回、池キャンパスでサークル活動を行っています。

このサークルでは、手話の技術の習得のみならず、聴覚障がい者に対する知識・理解を深めることを目的としています。技術の習得では、日常会話でよく用いられる手話に加え、看護師として実際に現場に出て聴覚障がい者と関わる際に使えるように、専門用語の手話についても学習しています。聴覚障がい者の知識・理解では、困っている事は何か、聞こえる私たち、医療従事者として従事していく私たちにどのようなサポートができるのかについて話し合っています。

この手話表現は、世界共通で「I Love You」を意味します！



現在は、コロナウイルスの感染拡大により、学内に聴覚障がい者を招くことは出来ないのですが、今後はオンライ



ン等を使用し、直接お話を伺い、習得した手話が本当に伝わるのか、サークル員に体験して頂きたいと考えています。

全国的に手話に携わっている方の多くが 50 代以降です。10 代・20 代となるとごくわずかです。さらに専門的な知識を有し、命に直接関わっていく、医師・看護師といった医療従事者で手話通訳ができるほどの技術を身につけている方は本当に限られています。このような現状があるため、未だに聴覚障がい者の多くが、日常生活で困ることとして、病院の受診を挙げます。そして、身体についての不安を持ち病院に来て、その不安を解消することができないまま家に帰っています。こういった方々が一人でも少なくなるよう、サークル活動を通して、聴覚障がい者に対する理解・支援の方法についての学びを深めていきたいと考えています。

大学内部だけでなく、他大学の方と協力して全国の医療系学生を対象としたワークショップも先日開きました。今後も、大学内での活動に留まらず、全国で聴覚障がい者・手話についての理解を拡大していきたいと考えています。

UOK 手話サークル代表 看護学部 2 回生 徳永 旭

しらさぎ会基金規程

(名称)

第 1 条 特別会計基本金より引き継いだ金額（原資）をしらさぎ会基金と称する。

(目的)

第 2 条 高知県立大学同窓会しらさぎ会の円滑かつ安定的な運営を補う。

(使途決定)

第 3 条 理事会総意のもと提起し、総会において決議する。

(管理)

第 4 条 理事会が管理し、監査を受けて総会に諮る。

附則

この規程は、2019 年 5 月 18 日より施行する。

令和 3 年度 しらさぎ会の運営体制

名誉会長 野嶋佐由美（学長）

顧問 五百蔵高浩（副学長）、中野綾美（副学長）

【理事会】会長 吉川葉子

副会長 佐田久美子、森利美

理事 稲垣佳代、小松和加子、塩見理香、千光士教子、廣内智子、藤川美和、本間ともみ、前田真衣、村上和子、吉田久恵、渡邊ゆかり

監事 岡本真知子、柴田真弓

【会報編集委員会】

広報担当理事 本間ともみ、渡邊ゆかり

会報編集小委員会 仁尾郁、小松美鶴、中山恭子、水田佐智子、森和美

編集後記

「しらさぎ 54 号」をお届けいたします。先輩、学生のみなさんよりご寄稿を頂き、ありがとうございました。普段と異なるコロナ禍で、生活も学業もままにならない日が続いています。

そのような中でも全国のしらさぎ会員、県立大学学生のみなさんが、精一杯活動されていることが実感できました。みなさん、お忙しいなかを、本当にありがとうございました。（会報編集委員会）